

第7回 阿波おどり実行委員会会議 議事録

開催日 平成30年9月7日(金) 午後3時～

開催場所 徳島市役所13階 第2研修室

出席者 委員7名(内代理1名、欠席1名) 事務局5名

- 1 開会
- 2 欠席者、代理出席紹介
- 3 議題(1) 阿波おどりの総括について

【委員長】

今年の阿波おどりは新たな運営体制で初めての開催となったが、まずは無事に開催することができたことに対し皆様へ感謝申し上げたい。この実行委員会は4月26日に設置したが、実質的に準備を進めたのが5月の栈敷取得後であり、2カ月半余りという限られた時間で無事開催できたので、今年の阿波おどりは点数をつけるのであれば、80点ぐらいと考えている。ただ、様々な課題の発見ができたことにより、しっかり検証を行い、これまで以上に楽しんでいただける阿波おどりにしていかなければならないと考えている。

【A委員】

事務期間が短い中で開催できたことは評価するが、それ以外のことはたくさん問題がある。80点という点数は甘すぎるのではないか。検証すべきことは、たくさん浮き彫りになっており、全体的な総括としては開催ができたことについてのみ、よかったとは思っている。

【B委員】

私は反対の意見であり、短い期間でよくできたと思っている。もう少し点をあげていいと思う。

観光客が多い少ない、チケットが売れた売れてないはあるが、観光客は例年と変わりなく楽しんでた。いろいろと問題はあったが、開催できてよかったと思う。点数が何点になるのかは問題であるが、よかったと思う。

【C委員】

点数はよかったと思うが、主催者自身が点数をつけるのはおかしいと思う。

【委員長】

80点というのは記者会見で質問されて申し上げたので、そのことを皆様にお伝え

した。

【D委員】

点数については、その見方、期間等いろいろあると思うが、開催までの期間が短く、また、新しい実行委員会を立ち上げて最初の阿波おどりであったことから、今年はこれを活かして、来年、再来年、5年、10年先を見越しての記念すべき1年だったとしていかなければならない。点数についてはおのずと5年後、10年後に、いろんな人が評価してくれると思うので、点数よりも前に向いていきたい。

【E委員】

事務局は何点だったとか、開催自体の部門別などに切り取って点数をつければそれぞれ違ってくると思うので点数は控えさせていただくが、短期間で、また初めて取り組んだ事務局職員の皆様をはじめ本当にご苦労だったと思う。

良かった点、悪かった点、特に悪かった点をしっかり精査し、次年度にしっかりと繋げていく、あまり背伸びをせずにまずはきっちり運営できるということがわかったので駄目だった点を浮き彫りにし、しっかり埋めていく。思い切っているいろいろなことをしようとするのもいいと思うが、まずは駄目だった部分を洗い出してしっかり実行委員会で話し合っていくべきだと思う。

【委員長】

阿波おどりの統括について、資料1の中に「点数をつけるとすれば80点であり」という文言があるが、皆様の意見を聞くと、削除した方がいいのではないかと思うが。

【D委員】

公式な文書として公に出すのか。

【委員長】

阿波おどり実行委員会の記録として残ることになる。

【B委員】

根拠がないため削除したほうがいいのではないか。

【委員長】

点数のところを削除することでよろしいか。点数をカットすれば、今年の阿波おどりは成功であったと考えているとなるがよろしいか。

【D委員】

概ねなどは必要でないか。成功というと100点となる。

【E委員】

課題があったのも間違いはなかった、課題のあった中での成功というのはいいか。成功という言葉が一人歩きするので、表現は考えた方がいいのではないか。取り手側にもよるが、課題があったのに成功であったというのはおかしい。

【A委員】

成功、不成功の文言自体も相応しくないのではないか。この短期間で開催できたこと

は評価できるなどがいいのではないか。成功失敗などは定義も難しい。

【D委員】

文言は事務局で考えるということ。

【事務局】

総括ということで、成功という言葉が適当かどうかは別にして、評価は入れていただいた方がよいと考えている。

【A委員】

中止になる可能性がある中で、無事に開催できたことは大いに評価できる。

【B委員】

危ない場面もあったが。

【委員長】

4月26日に新たな主催者である阿波おどり実行委員会を立ち上げたものの、実質的に準備を進めることができたのは5月21日に栈敷を取得してからであり、2カ月半余りという、非常に限られた時間で、阿波おどりを無事開催できたことは大いに評価できる、ということよろしいか。

(異議なし)

4 議題(2) 人出の状況について

【事務局】

資料2 人出の状況について説明

【B委員】

他の観光地も押し並べて減少しており、徳島県内に関わらず愛媛の道後も悪い。比較すれば阿波おどりの観光客が少なかったのは、全体的に悪かったのではないか。

【A委員】

推計方法については、昨年123万人がベースとなっていると思うが、今年108万人の推計方法を具体的に示していただきたい。

【事務局】

前年の12日の35万人がひとつのベースになる。この数字に12日の午後7時半ごろの街角の雑踏の状況、演舞場の人の入り込み具合、臨時駐車場の空き情報、これらを昨年度の35万人と比較し総合的に判断を行い推計している。

5 議題(3) チケットの販売状況について

【事務局】

資料3 チケットの販売状況について説明

【D委員】

全体的に下がっているのはわかるが、2部の方がより下げ率が高いということは、

何か想定される理由があるのか。

【事務局】

今年度は全体的に人出自体が減っており、旅行会社を利用しての宿泊客も減少している。日帰り客の減少よりも宿泊客の減少が多かったのではないかと考えている。

【E委員】

総おどりがなかった関係で南内町演舞場の売上げが落ちると想定されていたが、それ以上に市役所前演舞場の落ち込みが激しい。市役所前演舞場に関しては立地も含めて売上げが落ちた原因を伺いたい。これだけの数字が出ているので次年度に向けて真剣に考えていくべきではないか。

【事務局】

現時点で市役所前演舞場の売上げが落ちた原因はまだ分析できてない。先の阿波おどり運営協議会の中で市役所前演舞場が低迷しているのは、立地的に他の3つの有料演舞場に比べて離れていることや、移動の道が暗いなどが議論された。

今後は市役所前演舞場の魅力向上策を考えていく必要がある。

【E委員】

私の知り合いで、市役所前演舞場の2部のチケットを購入していたにもかかわらず、無料演舞場である両国本町演舞場と距離が近いということで、両国本町演舞場で観覧して帰ったという話も聞いている。一部の例かもしれないが、観光客の声にも耳を傾けながら抜本的に改革していく、演舞場として本当に存在しているのかどうかを含めて議論していく必要があると考えている。

6 議題（4）阿波おどり振興協会の総おどり強行に対する対応について

【事務局】

資料4 阿波おどり振興協会の総おどり強行に対する対応について説明

【委員長】

阿波おどり振興協会（以下「振興協会」という。）が強行した、総おどりについては非常に危険が伴う行為であったと考えており、阿波おどり実行委員会として声明を出せたらと考えている。

【B委員】

実行委員会のガバナンスが問われる一幕であった。

【A委員】

声明とはどういうことか。今日の総括のような中とするのではなく、振興協会に対する文書として出すのか。

【委員長】

振興協会だけではなく、実行委員会の声明として公表する。実行委員会の考えは伝えている。

【D委員】

振興協会に対して文書を出すとかいうのではなく、実行委員会として公に対してこうだという意見を述べるということか。それは、今まで再三に渡り振興協会がしてきた経緯からすると、実行委員会として何かしなければおかしい。後は、個別にするか公にするかだ。

【A委員】

振興協会の総おどりに対しては、実行委員会としてはこう考えているということか。これ自体は公表でしょう。

【委員長】

取り立てて、声明を出す必要がないということか。

【A委員】

資料4の内容だけの声明とする形で出すのでいいのか。

【C委員】

総おどりに対しては遺憾ではあるが、足の引っ張り合いではなく今後どうしていくべきか前向きに話を進めるべきではないか。

実行委員会の考えが来年以降も総おどりをさせないということであれば、声明を出していいと思うが、阿波おどりが終わってから話し合いをするのであれば、わざわざ攻撃的に声明を出さなくてもよいのではないか。自分の主張として総括の中に実行委員会として考えが入っているといいとは思いますが。

【委員長】

総括の一部としてあえて声明という形で発表する必要はないという意見であるが、実行委員会として総括の一部として公表する形でよいか。

【D委員】

振興協会に対し、何らかの形で文書を出さないのか。

【B委員】

総括の中でなんとなく表現するよりも、声明として明確にしたほうが良いのではないか。

【E委員】

次のことを前向きに考えるべきである。第2、第3の団体が出てくるかもしれないことを考えれば、声明がいいのか、または、総括の中でまとめるほうがいいのか、皆さんの意見にある程度従うが、次を見据えた形で見解を持っていないと、ただ声明等を出すだけではどうか。

【A委員】

遺憾であることは、全員思いは一緒だと思う。後は表明の仕方だけが問題ということである。

【D委員】

筋道的に考えれば、総括の一環でもいいかなと思うが、振興協会に再三文書を出してそれで強行されたということで、実行委員会としては何らかの書面を送らなければおかしいと思う。文面としては、今後協力体制の下で実行委員会に従ってもらわないと困るというような内容がなければ、それをせずに公だけで発表とういのはおかしいのでは。

【A委員】

実行委員会としては大変遺憾であると文書で直接伝えて、次年度以降の開催については、十分協議した上で阿波おどりに協力してほしいと付け加えた文書を出したらどうか。言いつばなしはギスギスして良くない。

我々は、遺憾ということは思っており、このようなことは二度とやらないでほしいと、それを伝えるべきだと思うが、閉ざされているわけではない。十分協議の上で阿波おどりを盛り上げてほしいということは必要かもしれない。

【D委員】

来年に向けて今後話をしていく必要があると思う。

【B委員】

今年は話をする時間がなかった。

観光協会と係争中であり、その観光協会に取って代わって振興協会の顔ぶれが上告したこともあり、話し合う状況ではなかった。その中でいろいろ考えて働きかけをしたが、応じてくれなくなり強行になった。

【委員長】

声明で出すよりも振興協会に対して文書を送付した方が良いという意見が出ているが、B委員どう思うか。

【B委員】

声明はただ言うだけであり、文書を送付するほうが良いと思う。明確にすべきだ。

【D委員】

この件に対しては、遺憾であったが、阿波おどりに対する思いは一緒なので、今後については協議をしていきたいという書面を送付してからの、次年度に向けてのスタートかと思う。

【委員長】

文書を振興協会に送ることによろしいか。

(異議なし)

文面については後日、事務局で作成し委員に示した後に決定することとする。

7 議題(5) 阿波おどり事業の検証方法について

【事務局】

資料5 阿波おどり事業の検証方法について説明

【B委員】

最初に考えなければいけないのが運営体制である。市長が実行委員長をしているが、阿波おどりだけでなく他の行政もあり、いつまでも続けられないと思う。

今後の運営体制をどうするのか、実行委員会委員も任期があるのではないか。

【事務局】

阿波おどり自体が何年で終わるといふことなく、委員の任期は会則で設けていない。ただ、委員の変更は随時可能である。

【B委員】

経済団体の代表として参画しているので代表が変われば当然どうするか協議をしなければならぬ。いずれにしても運営体制を先に協議決定しなければならぬ。骨組みが決まらぬと、他のことは決まらぬ。

【委員長】

委員案についてはどうか。

【B委員】

利害関係者は必要ないのではないか。

【D委員】

有識者会議で実行委員会の在り方まで議論、検証するのか。

【事務局】

運営体制を検証するもので、実行委員会を検証することはない。

【D委員】

諮問委員会のようなものか。

【B委員】

もう一つ運営協議会があるのではないか。

【委員長】

運営協議会にもしっかり案を出していただくように考えている。

【B委員】

有識者会議は必要なのか。

【委員長】

第三者の目でしっかりと検証するという点で提案しているが必要ないか。

【B委員】

実行委員会の委員も第三者的見方をしている。当事者ではあるが阿波おどりにどっぷり浸っていない。

【事務局】

有識者会議でいろいろな専門的な観点から客観的に審議、検証し提言書を実行委員会に提出いただき、最終的に実行委員会で決定するようになる。決定するまでの過程の中で有識者会議で検証いただくようになる。ご理解いただきたい。

【委員長】

有識者会議は実行委員会に提言いただく立場であり、実行委員会に変わって決定を行う機関ではない。実行委員会に対して提言をしていただく組織が必要かどうか。

【C委員】

有識者会議の費用はどこから出なのか。

【事務局】

実行委員会。

【E委員】

たくさん意見を聞いて観点を増やすことは良い事だと思うが、運営協議会が存在しており、旅行業関係者や宿泊業関係者等もいる運営協議会の立ち位置はどうか、ということと、運営協議会は人数が多く大規模であり、遠慮して意見が出にくいところもあると思う。そういう立ち位置になっている運営協議会、我々実行委員会があるなか、新たに設置する有識者会議のイメージができない。

【A委員】

弁護士、公認会計士は別として、旅行関係、宿泊関係や踊り連の関係者などからそれぞれ意見や要望を伺い、意見を聞いて回る組織があった方がいいのではないかと。それらを踏まえた上で第三者委員会で検討する方がいいのではないかと。利害関係者が直接組織に入ってしまうと要望の話になってしまい利益代表的な話になる。

【E委員】

宿泊業者を回って意見を集めているところである。全て意見を集めていないので今日は発表はできないが、いろいろな意見があり、中には参考になる意見もある。

例えば旅行関係者であれば、別の1社、2社なりを入れて違う目線として検証するのでもかまわないと思う。

【事務局】

新たに有識者会議を立ち上げた後になるが、運営協議会も開催されるのでその中で幅広く意見を伺い、その意見を有識者会議で検討し総合的にまとめていくように考えている。

今回のいろいろな課題をしっかりと検証し、来年度、あるいは5年先、10年先以降に繋げていくために、第三者の目を持って検証する有識者会議が必要と考えている。

実行委員会は事業を実行する立場であるため、一步距離を置いた形として第三者の目でしっかりと検証していただきたいと考えている。

【D委員】

有識者会議の委員は運営協議会と別の委員を考えているのか。

【事務局】

人選はこれからである。

【A委員】

きちんと機能することを前提にしなければ、いくら会を作っても意味がない。運営協議会に関係者がいる中で、旅行関係者をどういう形で人選するのか。より具体的にしていかなければ第三者委員会が実質的に機能するのかと思う。

【C委員】

事業は終わったが、実行委員会として決算の検証をしないのか。第三者委員会に任せて実行委員会に上がってきたものについて、決算の決を取るだけなのか。

【事務局】

決算については、後日になるが当然、実行委員会で協議を行っていただく。次年度の事業計画もしっかりと立てていただく。

【C委員】

決算や事業計画のスケジュールが見えてこない。

【事務局】

9月下旬に有識者会議を立ち上げ3回程度開催し、年内には実行委員会に対して提言書をいただき、それを基に検討していただくよう考えている。

それまでに、スケジュールについては示して行きたい。決算の確定には年度末までかかるため、次回の実行委員会で決算の概算について示したい。その後、年明けに有識者会議の提言を基に来年の事業計画を審議いただくよう考えている。

【委員長】

決算の概算は10月中旬もしくは下旬に出てくるようになる。その時に実行委員会も開催する。

【C委員】

これだけチケットが売れていないので赤字に対する不安がある。赤字となった時に、そこから改善策や解決していかなければならないことが出てくる。チケットが売れなく、大赤字となれば実行委員会が悪いという話になってくる。実行委員会は責任が一番ある。

決算の概算が出た時にそこから意見を発言し、前向きに考えていきたい。

【事務局】

次回10月下旬の実行委員会の時点で決算の概算を示させていただきます。

【A委員】

第三者委員会には年内に検証いただかないと、予算化の面で遅れてしまう可能性がある。概要が見えるタイミングで検証内容も合わせて提出されれば、来年に向けて予算化が間に合うが年明けになれば物理的に間に合わないこともあるため、スケジュール感をもう少し見直していただきたい。

【事務局】

スピード感は大切であり、事前の取り組みを早く着手するという事でスケジュールを考えていきたい。

【A委員】

先日開催された県の主催する観光審議会の中で、旅行業者は阿波おどりを開催するのであればできるだけ早く来年度はどのような形で開催するか発表してほしいと意見があった。旅行業者はすでに来年の販売に向かって動いている。

きちんと開催するという決議を年内の早い時期にやったほうがいいと思う。今年マイナスの原因になった問題は少なくとも10、11月には払拭できるよう決定をして発表する。これを持ち越してしまうとまたゴタゴタしてしまう。

【E委員】

旅行業界は宿泊の仕入れも始まっており、商品造成も始まっている。ましてや全国版は3ヶ月や半年前よりもっと前の段階で造成している。阿波おどりは毎年絶対にあるという前提で8割方を作成し、新しいトピックスや新しいフィナーレ等が間に合えば刷り込みを行い、発表が間に合わなければパンフレットに掲載ができないのが実情である。宿泊も伴い重要な部分である。

そういう意味で検証や実行委員会の開催についてもスピードを速めていく必要がある。

委員長の都合もあると思うが、実行委員会を何時開催するのか、今の段階で決め打ちしてでも早く開催していくべきだと思う。

【委員長】

決算の概要は10月中旬まではかかるという見通しである。

【E委員】

決算ができるのを待って何もかも決めるのではなく、今の時点で総おどりのことをどうするのか、フィナーレをそのままにするのかを含めてどうしていくかを決めていかなければならない。実行委員会を開催するのが無理であっても、意見を求めたりするのは事務局から発信していくのは全然かまわない。開催まで300日しかないと捉えていただきたい。

【委員長】

旅行会社として、リミットはいつまでになるのか。

【E委員】

8月は上半期の商品になるので、まさに今である。ただし、旅行会社によって差はあり、大体10カ月前ぐらいから商品造成に着手している。

【委員長】

トピックスがあれば今発表しなければならないのか。

【E委員】

印刷をかけてパンフレットを完成させるのはもう少し先になるが、宿泊の仕入れや飛行機の仕入れなどは動き出しており、関係機関と料金折衝を含め商品造成は始まっている。店頭販売は別であるが、それぐらいの感覚で動いている。

そこに全て合わせる必要はないが、これは絶対に謳ってほしい、載せてほしいなど次年度の阿波おどりはこうリニューアルするのでこのタイトルがでなければ意味がないというようなものについては、今考えていかなければ間に合わない。

【A委員】

全国的にいろいろな形で取り上げられており、ある意味、阿波おどりはまだ注目されている。

今年度は総おどり中止イコール阿波おどり中止というふうにとられた。そのようなことがないようにできるだけ早く解決していくのが必要である。今であればこういう形で改善されていくなど興味を持っていただける。

今年中に全部を決めなくてもいいと思うが、マイナス要因をしっかりと掘り下げて、改善していくべきだと思う。演舞場ごとのチケット販売率も数字が出ているため、有料演舞場が4カ所必要なのか、3カ所にするのか、演舞場の運営の仕方をどのようにするのか、総おどりにしても行うのかどうかを早めに決めて発信した方がいい。

【委員長】

チケットの販売方法も早めに決める必要がある。

【事務局】

9月中に有識者会議を立ち上げて検証していく。決算の概要が出ればいち早く出していき、合わせて検証をしていく。

【委員長】

E委員からの意見で、今何をしなければならぬのかわかったが、第三者に詳しい面まで検証いただき意見を伺う案についてはどうか。

【D委員】

今年初めて委員長が経験し、事務局も第三者委員会立ち上げを一度やってみたいとのことで、実行委員会の感覚にないものをいただけるという期待を込めて賛成である。

【E委員】

有識者会議を設置するのは結構だが、運営協議会で決まった内容を有識者会議に上げるということで、運営協議会の開催が遅れて有識者会議が開催できないことはないようにしていただきたい。

【F代理】

了承

【C委員】

了承

【B委員】

運営体制がどうなるかで有識者会議も決まってくる。特にこわだりはない。

【A委員】

機能する組織であってほしい。第三者委員会については賛成である。

【委員長】

実行委員会の目の届かないところ、思いつかないようなことを指摘していただければという思いで検証委員会をつくらせていただくことでよろしいか。

(異議なし)

人選については事務局で案を出して委員の皆様にご相談する形で進めていきたい。

以上をもって第7回阿波おどり実行委員会を終了する。